

Shimotsuke English Journal (SEJ)

Vol. 67



R3.6.20

今月のキーワード

ティームティーチングの授業

多くの英語の授業は、ALT との Team Teaching (TT) で授業が行われていますが、授業の打合せなどはスムーズに進んでいるでしょうか。今年度初めて下野市に赴任した ALT も多く、環境に慣れるまで時間がかかると思います。先生方からも積極的にコミュニケーションを図っていただき、早く学校に慣れ、ALT の個性や特技などを発揮できるようご支援をお願いします。

今回は、市で実施した ALT 研修において共通理解した内容をお知らせしますので、今後の授業に役立ててください。

For a better Team Teaching

Team Teaching では、担任と ALT が協力して授業を進めていきます。ALT は、Teaching plan (指導の流れ) に沿って指導を支援していくこととなりますが、主に英語を話すことを通して、次のような役割を果たすことを確認しました。



• For encouraging students to use English in the class

例) small talk や classroom English など、子どもとのやり取りを通して、子どもたちが英語を使う勇気を与える。

• As a model (good communicator)

例) 英語を使うモデルとなる。コミュニケーションの回り方などを示す、プレゼンテーションの見本を示す。

• For helping students understand (For scaffolding)

例) 分からない単語を言い替えるなど、子どもの理解を助ける (足場掛けをする)。

• For motivational feedback

例) 褒めたり、間違いを恐れなくて話そう励ましたりして、動機付けにつながるフィードバックをする。



ALT : 英語での指示や説明が分からない場合には、絵やジェスチャーなどを使って理解の助けとなるよう工夫しています。

ALT : small talk では、必ず子どもの反応を見ながら会話をし、質問を投げかけるようにしています。

ALT : 指名の仕方 (くじなどで、罰ゲームのような気分になること) は、違和感があります。

英語の授業に限ったことではありませんが、普段の授業で何気なく行っている「指名」について学年の先生方や教科部会などで話題にし、より活気のある授業づくりについて考えてみてはいかがでしょうか。



聞く・話す活動の充実へ向けて



教科書を使って授業をする際に、ALTによるインプット量を増やし、よりコミュニケーションを意識した活動になるよう、以下の点について確認をしました。

<活動例>

- ① リスニング活動 ——英語を聞いて答え合わせをするだけのリスニングテストにしない。
- ② ペア活動 ——パターンプラクティスのみにならないようにする。
- ③ プレゼンテーションなどの活動 ——目的を示す。

①

Let's Listen 1 3人が行きたい国とその理由を線で結ぼう。

1 Aya Canada	2 Tom Germany	3 Sho Thailand

音声で聞かせる前に、“Which country do you want to visit?” など、絵に関連した内容を質問するなどのやり取りを入れる。

②

Activity 2 行きたい国としたいことについて、たずねあおう。

What country do you want to visit?
I want to visit Spain.

Why?
I want to see the Sagrada Familia.

名前	行きたい国	したいこと

新出の表現だけを使って会話するだけではなく、+α(自由度)のある会話をモデルとして示す。“Me too.” “It’s nice.” などのリアクションや自分の考えを付け加えることも考えられる。

③

単元計画を立てる際には、単元の最後の活動(小学校ではFinal Activity)を確認して、計画的に指導を重ねていきましょう。

Final Activity つくった旅行案内を使って、行きたい国をしようかいしよう。

●友達の発表を聞いて、行きたいと思った国についてメモしよう。

名前	行きたい国	できること

「一緒に行きたいと思ってもらえるように、自分の行きたい国について理由を付けて紹介しよう。」など、**活動の目的を示す**ことで、子どもが思考する活動になります。

授業の打合せの際には、「授業のねらい」や「ALTにお願いしたい部分」を明確におきましょう。担任とALT、二人の目で子どもたちを見守り、指導できる利点を生かしつつ、互いの思いや考えを理解しながら授業づくりを進めていってください。



文責：学校教育課 稲葉 亜希恵